

教03 本校における遺伝子分析科学認定士学生受験の試み

○嶋津 翔太(しまづ しょうた)、望月 泰男、谷口 智也、生江 麻代、檜山 由香里、香取 尚美、山藤 賢
昭和医療技術専門学校

【はじめに】本校では遺伝子分析科学認定士試験が施行された平成19年度第1回試験から毎年任意で学生が受験し、これまでに191人の合格者を輩出してきた。昨今の遺伝子分析関連における制度の動きもあり、今後の医療現場で必要とされるより高い質を持ち合わせた臨床検査技師を多く輩出するべく、今年度第3学年生より、学年全員で受験することとした。これまでの経緯とその試みについて考察を踏まえ報告する。

【対象】初年度よりの本校受験者及び今年度本校臨床検査技師科第3学年生70名を対象とし、これまでの結果並びに今年度の取り組みについて検討する。

【結果・考察】これまでの受験者数は毎年10人～50人の幅であり、総数で191人、60.8%の学生が合格をしている。社会人受験も含めた全受験者の平均が71.1%であることを考えると、学生としてのこの数字は、健闘していると言っているのではないかと考えている。今年度の授業は、補講として、3月より筆記試験・実技試験(動画・技術試験)対策の特別講義を計15回程度実施している。また、模擬試験を数回行い、知識の確認も行っている。

本校では、今年度で12回目の受験となり、本試験受験への価値を大きく捉えている。その受験のためには、金銭的な部分からも、学生のみならず保護者への説明、理解を必要とし、協力をいただいているからこそ本試験への全員受験へと結びついている。また、本校では4月より6ヶ月間の臨地実習を行っており、その期間での受験は学生にとって負担となる。その上での両立は大変であるが、学校と臨地実習先の先生方との関係性から、その学生達を学校職員だけでなく、臨地実習先の先生方にもご理解をいただき、サポートいただける環境も備わっていることが必須である。本年度の試験結果は7月上旬に発表となるためこの抄録の段階ではまだ不明だが、この試験に全員で受験し、また勉強した環境は、今後の国家試験、また就職活動、就職後の現場でも、将来に亘って大いに役立つものと考えている。学会発表の際には、今年度の結果も併せて報告させていただく。